

## 一年の無病息災を祈る

黒坂・菅福地区とんどさん



持ち寄られた正月飾りに火が入る

地域住民の無病息災を祈る、黒坂地区コミュニティ推進協議会主催のとんどさんが、1月16日、黒坂小学校校庭で開かれました。

毎年恒例となっていてるとんどさん。同協議会の中原明会長は、「黒坂地区コミュニティ推進協議会が発足して19年目。伝統行事を伝え、子どもたちに経験させて残さなければいけない。とんどさんは、地域住民の年初めの良い交流の場となっている大切な行事です」とあいさつ。

当日は吹雪の中、約60人が参加。各家庭から持ち寄られた、たくさん正月飾りに火が入ると、書初めが高く舞い上がる場面も見られました。また、同協議会ボランティア部によるぜんざいの炊き出しが振る舞われ、にぎわいました。

## 寒さに負けずエイヤツ

日野川で空手の寒げいこ



冷たい日野川に気合を入れる

寒さの中で心身を引き締め、今年一年の精進を誓う、日本少林寺流空手道錬成会館鳥取地区本部（音田守本部長）による空手寒げいこが、1月30日に行われました。

当日は雪が舞う寒い日になりましたが、県内外から約50人の会員らが参加。まず、山村開発センターで基本の突きやけりのけいこを行った後、根雨の日野川へ入りました。

参加者は気温、水温の低さに体を震わせながらも、気合を入れて入水すると、大きな声を出して拳を突いていました。

また、辺りには、冬の風物詩を撮影しようとカメラマンも駆けつけ、「頑張れ、頑張れ」と声をかけながらシャッターを切っていました。

## 雪深い山々に歌声響く

別所で出前サロンコンサート



歌詞を見ながら楽しむ

1月16日、奥渡公民館で出前サロンコンサートが開かれました。これは、町文化センターホワイエを使ってコンサートを企画しているホールと共に歩む会（木島泰会長）が、サロンコンサートを多くの人たちにも聞いて欲しいと、米子市で「うたごえ喫茶」を主催する永井達也さんを招いて企画したものです。

当日は大雪に見舞われましたが、別所地区と同会のメンバーら21人が参加。永井さんのアコースティックギターの軽快な音色と語り、最初は硬い雰囲気の間も次第に和やかに。往年の名曲から今はやりの曲まで幅広い内容のコンサートに、参加者らは、「良い企画です。昔の歌も思い出して、歌えました。歌は元気になる。楽しかった」と笑顔が溢れました。

永井さんは、「うたごえ喫茶は楽しく笑顔で参加して欲しい。歌詞を見ながら下を向いて歌うと声を通らない」と楽しむ極意を伝授。また、今回について、「アットホームな感じで良かった。歌は元気が出てストレス解消にもなる。健康になれる。このうたごえ喫茶がこれからも町内に広まればうれしい」と話しました。

出前サロンコンサートは、町の「元気なまちづくり交付金」を活用して、歌集などを作成。同会の木島会長は、「今回初めて出前サロンコンサートを開催した。声をかけても、受けてもらえなければ開催できない。どんどん広めたい」と意欲満々でした。

会場が一つになる「うたごえ喫茶」





防災まちづくり大賞の立派な盾



東京での表彰式を終えて景山町長に報告  
左から、景山町長、日野ボランティアネットワーク松田暢子さん、小谷博徳代表、山下弘彦さん

日ごろの幅広い防災活動が認められる  
日野ボランティアネットワークに防災まちづくり表彰

地域における幅広い防災への取り組みや工夫などのうち、特に優れた実践団体を表彰する「第15回防災まちづくり大賞」（財団法人消防科学総合センターなど主催）に日野ボランティアネットワーク（小谷博徳代表）が選ばれました。

今回は、日野ボランティアネットワークが鳥取県西部地震以降、継続して地域づくり活動や災害弱者の生活課題の把握、復興活動の経験を生かした支援活動を県内外に伝えてきたことが評価されたもので、鳥取県内からの受賞は初めて。

1月26日、東京で行われた表彰式には小谷博徳代表と山下弘彦さんが出席。山下さんは、「表彰された団体は地域のいろいろな人たちが関わっている。町の大きさは違うが、地域を巻き込む活動の仕方が参考になった」と話す。

また、これまでの活動を振り返り、「無理な活動はしていないから継続できているのではないか。団体の会員は生き生きと活動している。そして、子どもたちの参加が大きい。社会人になっても参加してくれることが、継続できている理由の一つ」と力を込める。今回の豪雪でも、雪かきの依頼があったとのこと。山下さんは「少子高齢化の大変な時代だからこそ続けていきたい。町民の皆さんには参加できる場所で力を貸してほしい」と町全体に活動の輪が広がることを願いました。



宇佐美さん（左）の演武に子どもたちは息をのむ

感謝を強さに

根雨小でスポーツ講演会

夢や希望を持ち、目標に向かって努力する児童を育てることをねらいとし、2月9日、根雨小学校（手嶋千恵里校長）で世界で活躍するトップアスリートを招いたスポーツ講演会が開かれました。

講師は昨年開かれた広州アジア大会、空手道・形で金メダルの宇佐美里香さん（鳥取県教育委員会）。『スポーツを通して学んだことは友達に会えたり、格好良いから続けていた空手だったが、今は自分の空手を見つけたことが楽しい』と空手の魅力を話しました。

また、学んだこととして、「我慢することは自分を成長させてくれる。空手のあいさつ『押忍』は我慢することを意味しています。生きていく中で我慢することは必要」と諭しました。

さらに、大切にしている言葉として、「まずは、『情熱』。何をやるにもやる気がないとものにならない。次に『努力』。毎日、決めたことをやり抜くこと。そして、『感謝』。人は一人では生きていけない。周りの人に感謝すること。最後に『感動』。見ている人を感動させたい。感謝の気持ちを形に表現するようにしています。今日も私の形を見て、みんなが何かを感じてくれたらうれしい」と4つを伝えました。

講演の前には、演舞を披露。宇佐美さんのゆったりと動いたかと思いと、素早く跳び、激しく拳を突き出す、腹の底から気合の声を出す美しくも迫力のある演武に子どもたちは、「初めて空手を見て、風を切る音が大きくて驚きました。格好良かったです」と感動。素晴らしい話と演武をした宇佐美さんに大きな拍手でお礼をしました。

宇佐美さんは全日本選手権やアジア選手権など国内外の数々の大会で優勝する実力者で、全日本強化選手として世界で活躍するトップアスリート。現在は、鳥取県教育委員会に所属。子どもたちにぜひ、話をして欲しいという先生方の思いが通じ、実現しました。